



公益社団法人
日本地震学会
The Seismological Society of Japan (SSJ)

[English Page](#) [ホーム](#) [サイトマップ](#)

メニュー [トップ](#) > [出版物・資料](#) > [情報誌「日本地震学会ニュースレター」【年6回発行】](#) > [Vol.26\(2014年度\)](#) > [Vol.26 No.5](#)
[January 10, 2015](#) > [会員の声](#)

[HOME](#)

[会長挨拶](#) **会員の声**

「日本地震学会の改革に向けて：行動計画2012」の社会的意義

[日本地震学会の概要](#)

信州大学工学部 泉谷恭男

[組織・委員会](#)

2014年5月21日の大飯原発訴訟判決に強い衝撃を受けた。地震科学者である筆者が衝撃を受けたのは、判決内容に対してではなく、判決に至る過程に法理の反転が感じられたからであった。そして、その法理の反転の根拠となった「地震動予測の曖昧さ」が社会に知られるようになったきっかけが、「行動計画2012」であった。

[規則集・投稿規定](#)

2011年3月11日に発生した悪夢のような東日本大震災を目の当たりにして、日本地震学会では、今までの研究では一体何が足りなくてこのような大災害に至ったのかについての真剣な議論が行なわれた。同年秋の学会時に静岡市で開催されたシンポジウムでの議論を踏まえて、2012年10月に、日本地震学会理事会によって「行動計画2012」が公表された。そこに述べられたことの一つは、研究成果の公表の仕方に関するものであった。「分かっていることだけではなく、分からないことについても社会にきちんと伝えるべきだった」という反省の上に立って、それ以来、社会に対して「等身大の地震学」を伝えようとする努力がなされてきた。

[行事予定](#)

[秋季大会](#)

東日本大震災以前は、地震動予測の精度は極めて高いという誤った考えが社会に広まっていた。(浜田, 2013, 2014; 泉谷, 2013; 増田, 2014)。地震動予測の問題に限らず、「科学的な」という言葉が「極めて精度が高い」という言葉とほとんど同義として社会で通用していた。その結果、原発稼働差止め訴訟においては、「精度が極めて高い地震動予測結果に基づいて設計されている原発が危険であること」の立証が、原告側に求められるのが常であった。

[IASPEI 2017](#)

[出版物・資料](#)

ところが今回は、地震動予測の精度はそれ程高くないという現状を踏まえ、それに基づいて設計された原発が「安全であること」を立証することも「危険であること」を立証することも、双方とも難しいと認定された。その結果、「精度がそれ程高くない地震動予測結果に基づいて設計されている原発が安全であること」の立証が、事業者側に求められた。これは、水俣病裁判以降の公害裁判で典型的に見られる法理の反転であり、被害者(および、被害を受ける可能性のある者)を救済するという論理に立つものと言えよう。

[学会賞](#)

[公募・助成](#)

さて、基準地震動の妥当性について、地震学の専門家ではない裁判官が判断したことに対する批判も見受けられるようである。しかしながら地震科学者に出来るのは、基準地震動の妥当性の判断ではなく、地震動予測結果及びそこに含まれる曖昧さを示すという、純粋に科学的な事柄だけである。地震動予測に曖昧さが多分に含まれる現状において原発稼働の条件となる基準地震動の妥当性を判断するためには、純粋に科学的な要因以外に、発電コストや事故などに関する社会的要因を多分に考慮する必要がある、地震科学者はむしろ素人である。

[寄付制度のご案内](#)

[入会案内・諸手続](#)

もちろん、地震動予測の精度向上のために努力することは地震科学者としての責務である。しかしながら、科学的に曖昧な事柄に関してある基準を定めなければならないという問題は、科学ではありながら科学だけでは解決できないトランスサイエンスの領域(例えば、川勝, 2012)に属する問題で、多様な価値観を持つ人々たちによって開かれた場での議論を通じて解決されなければならない。そのような場が社会的に創設されていない現状では、基準地震動の妥当性の判断を司法に委ねるのも、已むを得ない選択肢の一つであろう。

[メーリングリスト](#)

[投稿・問い合わせ先](#)

判決内容は社会的判断であって、地震科学者として立ち入るべき領域ではない。ただ、判決の翌日の朝日新聞に掲載された東大地震研究所の瀧藤一起教授の「地震動予測の精度は判決が述べる程度のもの」という旨のコメントが示しているように、今の地震学における等身大の知見に基づいて社会的判断がなされたという事実、それ自体については、高く評価すべきである。そしてこの方向は、東北の地震・津波による悲惨な災害

賛助会員 から得た貴重な教訓を将来に生かすという決意を籠めて宣言された「行動計画2012」の目指している方向でもある。

リンク

参考文献

地震に関するFAQ

会員専用

浜田信生, 原発の基準地震動と超過確率, 日本地震学会ニュースレター, NL25-3, 23-26, 2013.

http://www.zisin.jp/modules/pico/index.php?content_id=2780

浜田信生, 「原発の基準地震動と超過確率」に寄せられた意見についての感想, 日本地震学会ニュースレター, NL26-2, 64-65, 2014. http://www.zisin.jp/modules/pico/index.php?content_id=2960

泉谷恭男, 浜田信生「原発の基準地震動と超過確率」に関連して考えたこと, 日本地震学会ニュースレター, NL25-4, 19-21, 2013. http://www.zisin.jp/modules/pico/index.php?content_id=2818

川勝 均, トランスサイエンスとしての地震予知・長期評価, 日本地震学会モノグラフ, 第1号, 53-54, 2012.

http://zisin.iah.jp/pdf/SSJ_final_report.pdf

増田 徹, 基準地震動と超過確率と安全, 日本地震学会ニュースレター, NL25-5, 39-40, 2014.

http://www.zisin.jp/modules/pico/index.php?content_id=2851

企画制作: 公益社団法人日本地震学会・広報委員会

問い合わせ先

所在地: 〒113-0033 東京都文京区本郷6-26-12 東京RSビル8F

Copyright (c) 1997-2010, Seismological Society of Japan. All Right Reserved.